

2020（令和2）年4月8日

生徒諸君へ

臨時休校にあたって

筑波大学附属高等学校

校長 藤生 英行

臨時休校にあたって、生徒諸君にメッセージを送ります。

3月2日からの臨時休校と春休みに引き続き、今回やむなく、再度の臨時休校に踏み切ることになりました。新年度・新学期になったにもかかわらず、皆さんを学校に迎えることができず、教職員一同、とても残念に思っています。

このような事態は、本校の長い歴史のうえでも、いや戦後日本の教育史上においても、極めて異例なことです。しかし「国難」「世界を変える」とまで言われる新型コロナウイルス感染症を抑え込むために、とりわけ、緊急事態宣言の出された日本で、そのなかでも、感染者が急速に増加している東京に所在する学校としては、やむを得ないと考えます。

生徒諸君もその点をよく理解してください。新型コロナウイルス感染症が若年者の場合に発症しにくい、重症化しにくいということで、他人事のように捉えることのないようにと切に思います。

授業も受けられず、部活動もできず、仲間たちに会うこともできないのは辛いことだと思います。特に、部活動の掉尾を飾るべきこの時期に、大会参加はおろか練習すらできなくなった3年生は納得できない思いを抱えていることでしょう。

「学校はいつ再開するのだろうか」「勉強が遅れるのではないか」「大学入試は大丈夫だろうか」等、不安を抱えている人も多いことでしょう。われわれ教職員は、そのような辛さや不安を緩和すべく、可能な限り皆さんをサポートしていきたいと考えています。なんとかこの難局を乗り越えていきましょう。

さて、休校中、課題は出しますが、課題に取り組んでもなお、時間をもてあます人もいそうです。そういう時間を有効に活用してください。

本校のモットー「自主・自律・自由」のうち、自宅待機を余儀なくされている諸君に「自由」が十分あるとは言いませんが、「自主」と「自律」は、休校期間中も、いやむしろそういう日々こそ発揮することができるのではないのでしょうか。

自らの生活を律し、スマホ漬け、ゲーム漬けになりませんように。この際、普段は読めないような本を読んだり、DVDで映画を観たり、じっくり音楽を鑑賞したりはどうでしょう。運動不足を補うために家の周りをジョギングしたり筋トレしたりも可能です。いろいろと自ら工夫して、取り組んでみてください。

今回の新型コロナウイルス感染症をめぐる様々な出来事について、少し距離を置いて観察し、世界・日本の政治や経済や国際関係や文化にどのような影響を与えるかについて考えを巡らせてみることも高校生ならやってほしいことです。

いま巷ではカミュ（フランスの作家）の『ペスト』が読まれているといます。ある都市を襲ったペストと、それに対して団結・協力して立ち向かう人々の姿を描いた名高い小説です。

まさにこの瞬間も、感染してウイルスと闘っている人々、彼らを生き延びさせるために自分自身も感染リスクを負いながら治療している人々、一刻も早くワクチンを開発しよう研究を重ねている人々、人工呼吸器の増産のために終夜働いている人々、効果的な対策の立案・実施のために身を削っている人々などがいます。彼らの努力と協力が、いわば「世界の崩壊」を食い止めているのです。そういう人々の存在を忘れないようにしてほしいと思います。

もうひとつ、感染者やその家族への偏見や差別は、それ自体してはあってはならないことですし、感染拡大防止にもマイナスに働きます。皆さんが偏見を持ったり差別的言動をとったりしないことはもちろん、できればそういうことを制止できるようになってほしいと思います。

授業が再開され、諸君と会えることをとても楽しみにしています。